

陸普第五三四八號ニ依ルモノトス
受領ノ上前段ニ準シ輸送スルモノトス

品 (旬 上 月 二 十) 宇 (旬 上 月 二 十)	品 (旬 下 月 一 十) 宇 (旬 下 月 一 十)	地 船 乘 (次 日 船 乘)
津 清 八 又 山 釜 (旬 中 月 二 十)	津 清 八 又 南 興 山 釜 (旬 下 月 一 十)	地 付 交 (次 日 陸 揚)
<p>一、第二十師團歩兵聯隊配屬馬匹八九 月二十三日附陸普第五三四八號ニ 依ル增加馬匹トス</p>		<p>摘 要</p>

船舶輸送済日次

西田(通判馬) 一頭 十月五日 津揚陸
 西田(馬) 一頭 十月九日 右
 西田(馬) 三頭 十月十日 右

三
 十
 年
 十
 月
 廿
 日
 第
 一
 次
 考
 試
 錄
 名
 冊

第 八	第 七	第 六	第 五	第 四	第 三	第 二	第 一	近 衛	廳 名
/	/	/	/	/	/	/	/	/	月 日
朝 鮮	第 二 十	第 十 九	第 十 六	第 十 四	第 十 二	第 十 一	第 十	第 九	廳 名
	/	/	/	/	/	/	/	/	月 日
			計		軍 法 學 士 考	支 那	臺 灣	關 東	廳 名
			一 九 年		/		/		月 日

軍
法
學
士
考
試
錄
名
冊
 依
此
考
試
錄
名
冊
 查
閱
 通
知
 錄
名
冊

千二百十二號

副官

副官

閱

大臣

門

大臣

門



第一號

首題ノ計畫書 各部別冊ノ通送付ス

大臣官房御中

昭和十年十二月六日

陸軍省軍務局馬政課

馬政第二次計畫送付ノ件

馬政發第四一三號

永久甲 馬政

陸軍省軍務局馬政課 二五八四號

昭和十年十二月十日 陸軍大臣官房

陸軍

馬政第二次計畫

農
林
省

目次

馬政第二次計畫綱領	一頁
第一期實施要領	五
馬政第二次計畫綱領說明	七
附 錄	
馬政第一次計畫	一三
第一期計畫概要	一三
第二期計畫綱領	一七
第二期計畫綱領說明	二〇

馬政第二次計畫綱領

馬政第二次計畫ハ第一次計畫ヲ承繼シ國防上必要ナル有能馬特ニ有能乘輓馬ノ充實ヲ目標トシ産業上ノ基礎ニ立脚シ經濟ノ實情ニ即シテ適切ナル保護獎勵ヲ行ヒ馬産經營ノ安定ヲ圖リ馬ノ資源ヲ涵養充實セントス
本計畫ノ要綱概ネ左ノ如シ

第一 計畫ノ期間

本計畫ノ期間ハ昭和十一年度ヨリ昭和四十年度ニ至ル三十箇年トス

第二 保有馬數

内地ニ於テ保有スベキ馬數ハ少クトモ百五十萬頭トシ其ノ役種別區分ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三 馬ノ改良方針

馬ノ改良ハ役種別區分ニ基キ地域的ニ役種別生産方針ヲ確立シ馬ノ登録ニ

關スル制度ヲ設ケ種類別體型標準ニ準據シテ配合ノ統制ヲ圖リ體型ヲ整理シ種類ノ固定ニ努メ各役種ニ適應スル性能ヲ具フル馬ノ造成ヲ期セントス

第四 種牝馬ノ要數

種牝馬ノ所要總數ハ六千頭トシ内政府ニ於テ繫養スル種牝馬ノ數ハ少クトモ三千頭トシ民間ニ於ケル種牝馬ニ對シテハ相當ノ保護ヲ加ヘ之ガ充實ヲ圖ラントス

第五 種牝馬ノ充實

種牝馬ノ充實ニ付テハ特ニ乘輓馬生産用優良種牝馬ノ維持涵養ニ重キヲ置キ有能馬生産資源ノ確保ヲ期セントス

第六 馬ノ育成調教

馬ノ育成調教ノ改善向上ヲ圖リ其ノ性能ノ發揮ヲ全カラシメ有能馬ノ造成ヲ期セントス

第七 馬ノ利用

馬ノ利用範圍ノ擴張及利用方法ノ改善竝ニ乘馬ノ普及ヲ圖リ之ガ需要ノ増進ヲ期セントス

第八 牧野及飼料

牧野ノ改良整備及飼料ノ増産ヲ圖リ馬産經濟ノ改善ニ資スルト共ニ馬ノ資質ノ向上ヲ期セントス

第九 馬ノ衛生

馬ノ疾病ヲ防遏シ健康ノ増進ヲ圖ルト共ニ蕃殖能率ノ向上ニ努メ馬産ノ安定ニ資セントス

第十 競馬

競馬ノ改善刷新ヲ圖リ其ノ施行ノ適正ヲ期シ馬ノ改良増殖ノ目的達成ニ努メントス

第十一 朝鮮、臺灣及樺太ノ馬産トノ連絡

内地馬政ノ遂行ニ付テハ朝鮮、臺灣及樺太ノ馬産トノ連絡ヲ圖リ之ガ助長ニ努メントス

附記

本計畫ノ實施ニ付テハ内地馬産ノ關係ヲ考慮シ滿洲國馬産トノ連絡協調ニ努メントス

第一期實施要領

馬政第二次計畫ハ昭和十一年度ヨリ昭和二十年度ニ至ル十箇年ヲ第一期トシ大要左記要領ニ依リ實施セントス

第一 役種別區分

役種別頭數ノ標準ハ乘馬格二十萬頭、挽馬格四十萬頭、爾餘ハ小格挽馬トス

第二 種牡馬供用方針

政府ニ於テ繫養スル種牡馬ハ輕種約一割五分、中間種約八割五分外ニ重種若干ヲ供用スル方針トシ、地域のノ産馬方針ニ基キ其ノ配置ヲ適正ナラシメントス

第三 施設事項

施設セントスル事項左ノ如シ

- 一 國有種牡馬ノ増繁及民間種牡馬ノ保護

- 二 優良種牝馬ノ繫養獎勵
- 三 馬ノ登録ノ實施
- 四 馬ノ育成調教ノ指導獎勵
- 五 馬利用ノ獎勵
- 六 牧野ノ改良整備及飼料増産ノ獎勵
- 七 馬ノ衛生施設ノ擴充
- 八 競馬ノ統制改善
- 九 乘馬ノ指導獎勵
- 十 軍用適格馬ノ薦獎
- 十一 馬ノ保險事業ノ助成
- 十二 馬ニ關スル團體ノ指導及助成
- 十三 馬ニ關スル試験ノ實施
- 十四 其ノ他馬ノ改良増殖等ニ必要ナル事項

馬政第二次計畫綱領說明

第一 計畫ノ期間

本計畫ノ期間ヲ昭和十一年度ヨリ昭和四十年年度ニ至ル三十箇年トシタルハ
 第一次計畫ノ實績ニ徴スルニ馬ノ血液進化ノ功程ハ相當ノ成績ヲ收メ體型
 ノ整理亦其ノ緒ニ就キタルヲ以テ之ニ基キ諸般ノ方策ヲ講ジ馬五代三十年
 ニ互リ體型ノ整理及種類ノ固定ニ努メ資質ノ向上ヲ圖ルヲ適當ト認メタル
 ニ由ル

第二 保有馬數

内地保有馬數ヲ百五十萬頭トシタルハ國防上及産業上ノ實情ニ鑑ミ第一次
 計畫ニ於ケル馬ノ要數ヲ承繼シタルモノニシテ適切ナル方策ヲ講ジ右要數
 ノ維持ヲ圖ラントス尙役種別區分ヲ別ニ定ムルコトトシタルハ事情ノ推移
 ニ應ジ得ルコトトスルヲ適當ト認メタルニ由ル

第三 馬ノ改良方針

馬ノ改良ニ付テハ役種別區分ニ基キ地方ノ實情ニ即シテ地域的ニ産馬ノ方針ヲ確立スルト共ニ國ニ於テ馬ノ登録ニ關スル制度ヲ設ケ血統、體型及能力ノ登録ヲ實施シ種別體型標準ニ準據シテ配合ノ統制ヲ圖リ同種蕃殖又ハ系統的蕃殖ヲ獎勵シテ血液ノ混淆ヲ避ケ體型整理及種類固定ノ促進ニ努メ各役種ニ適應スル性能ヲ具フル有能馬ノ造成ヲ期セントス

尙右ノ目的達成ノ爲海外ヨリ輸入スベキ馬ノ種類ハ輕種ニ在リテハアラブ、サラブレッド及アングロアラブ中間種ニ在リテハアングロノルマン重種ニ在リテハペルシユロンニ之ヲ制限セントス

第四 種牝馬ノ要數

種牝馬ノ所要總數ヲ六千頭トシタルハ保有馬數トノ關係上第一次計畫ニ於ケル要數ヲ承繼シタルモノナリ而シテ種類固定ノ促進上種牝馬統制ノ要緊切ナルモノアルト共ニ民間ニ於ケル種牝馬ノ繫養困難ニシテ資質ノ向上ヲ

第五 種牝馬ノ充實

求メ難キハ固ヨリ其ノ數ノ減少亦免レザル所ナルヲ以テ六千頭ヲ國有トスルハ適當ナルモ本計畫ニ於テハ政府ノ繫養スル種牝馬ノ數ヲ少クトモ三千頭ニ増加セントス而シテ之ガ増繫ニ付テハ年次増加ノ計畫ヲ樹テ昭和二十年度ニ於テハ二千頭昭和三十年度ニ於テハ二千五百頭昭和四十年年度ニ於テハ三千頭ニ達セシメントス

民間ニ於ケル種牝馬ニ對シテハ之ガ維持ヲ圖ル爲必要ナル保護施設ヲ講ゼントス

第六 馬ノ育成調教

種牝馬ハ種牝馬ト共ニ馬改良ノ根幹ナルヲ以テ有能馬ノ増殖ヲ圖ラントスルニハ優良種牝馬ノ充實ニ俟タザルベカラズ就中乘輓馬ニ於テハ其ノ必要特ニ緊切ナルモノアルヲ以テ種牝馬ノ保護獎勵ニ付テハ乘輓馬生産用優良種牝馬ニ重キヲ置キ有能馬生産資源ノ涵養ニ努メントス

馬ノ性能ノ發揮ハ育成調教ニ俟ツ所極メテ大ナルヲ以テ育成調教ノ改善向上ヲ圖リ其ノ指導ヲ徹底セシメ體軀ノ發育及能力ノ増進ヲ助長スル爲馬ノ育成調教ニ關スル施設ヲ講ジ有能馬ノ造成ニ力ヲ致サントス

第七 馬ノ利用

馬ノ利用範圍ノ擴張及利用方法ノ改善普及ヲ圖ルハ其ノ經濟價值ヲ高メ馬産ノ堅實ナル發達ヲ期スル所以ニシテ馬資源涵養上最モ緊要トスル所ナルヲ以テ馬ノ利用ニ關スル適切ナル方策ヲ講ジ之ガ需要ノ増進ヲ圖リ有能馬ノ充實ニ努メントス尙乘馬ノ繫養ニ付テハ努メテ之ガ普及ヲ圖ラントス

第八 牧野及飼料

牧野ノ改良整備及飼料ノ増産ヲ圖ルハ馬ノ資質ノ向上及馬産經濟ノ改善上極メテ必要ナルヲ以テ牧野ノ改良整備ノ施設ヲ擴充スルト共ニ飼料作物ノ普及獎勵ニ努メ強健有能ナル馬ノ飼育ニ資セントス

第九 馬ノ衛生

馬ノ疾病ヲ防遏シ健康ノ増進ヲ圖ルト共ニ蕃殖障碍ヲ除去シ生産能率ノ向上ニ努ムルハ馬産ノ安定ニ資スル所以ナルヲ以テ衛生ニ關スル施設ヲ擴充シ馬資源涵養上遺憾ナキヲ期セントス

第十 競馬

競馬ハ馬産ノ發達上必要缺クベカラザル制度ナルヲ以テ之ガ統制改善ヲ圖リ其ノ施行ヲ適正ナラシメ馬ノ改良増殖ノ目的達成ニ努メ併テ馬事思想ノ普及ニ資セントス

第十一 朝鮮、臺灣及樺太ノ馬産トノ連絡

本邦馬政ノ完璧ヲ期スルガ爲ニハ内地外地ヲ通ジ連絡アル方針ニ基キ馬政ノ遂行ヲ圖ルコト肝要ナルヲ以テ本計畫ノ實施ニ付テハ内地馬産ヲ根幹トシテ朝鮮、臺灣及樺太ノ馬産トノ連繫ヲ密ニシ其ノ發達ヲ助長セントス

馬政第一次計畫

第一期計畫概要

馬匹改良第一期事業ハ明治三十九年度ヨリ同五十六年度(大正十二年度)ニ至ル十八年間ヲ以テ完了スヘキ計畫ニシテ其ノ内容ハ多岐ニ互ルト雖茲ニ其ノ概要ヲ摘記スレハ左ノ如シ

- 一 全國ヲ六馬政管區ニ區分シ各管區ハ馬政官ヲシテ之ヲ擔任セシメ產馬事業ノ調査及指導監督ニ當ラシメ以テ馬匹改良ノ進捗ヲ督勵セシム
- 二 種馬所十五箇所ヲ完備シ國有種牡馬千五百頭ヲ充實シ之ヲ民有牝馬ニ交配シテ改良蕃殖ヲ實施ス
- 三 種馬牧場三箇所ヲ完備シ蕃殖牝牡馬ヲ充實シ其ノ產駒ヲ以テ國有種馬ヲ補充ス此ノ補充頭數ハ國有種牡馬充實後ニ在リテ八年々其ノ約半數ヲ基準トス

四 國有種馬ノ充實及補充ノ爲内外國ニ於テ毎年馬匹ヲ購買ス此ノ頭數ハ種牡馬充實後ニ在リテハ年々補充頭數ノ約半數トス

五 種馬育成所一箇所ヲ完備シテ幼種牡馬ヲ育成ス

六 種馬牧場、種馬育成所及種馬所ニ於テハ飼料ノ耕作ヲ行フ但シ種馬所

ニ在リテハ專ラ良草ヲ得ルヲ目的トシ穀作ハ輪換上必要ノ程度ニ止ム

七 民有種牡馬ノ検査ヲ統一シ其ノ合格標準ヲ定メ一定ノ方針ノ下ニ嚴正

ナル検査ヲ施行シテ漸次其ノ資質ヲ向上セシム

八 馬匹共進會、競馬會ヲ獎勵シ優等牝牡馬ニ獎勵金ヲ下付シ産馬功勞者

ニ功勞賞ヲ授與スル等凡ソ産馬事業ノ改良發達ニ資スヘキ諸般ノ獎勵ヲ

實施ス

九 産馬組合ノ事業ヲ督勵シ其ノ業務ヲ有效確實ナラシム

十 馬匹ノ去勢ニ關シテハ曩ニ馬匹去勢法ノ制定アルモ之カ實施ノ機ニ到

ラサル間ハ專ラ獎勵ニ依リテ督勵シ一方ニハ去勢ニ關スル調査ノ歩ヲ進

メ又去勢技術員ヲ養成スル等其ノ實施ノ準備ヲ爲ス(馬匹去勢法ハ大正五年十一月一日ヨリ之ヲ施行スルニ至レリ)

以上ハ十八年計畫即チ馬匹改良第一期計畫ノ綱領ニシテ其ノ主要事項ヲ要約スレハ概ネ左ノ如シ

イ 種馬牧場三箇所、種馬育成所一箇所及種馬所十五箇所ニ於ケル施設ノ完備

ロ 國有種牡馬千五百頭(全國總馬數ヲ約百五十萬頭トシ其ノ約千分ノ一ニ相當ス)ノ充實

ハ 全國ニ於ケル馬匹總數ノ約三分ノ一二對シ血液ノ更新

ニ 諸獎勵ノ實施

我國ノ總馬數ハ從來大約百五十萬頭ヲ維持シ大ナル變化ナキ事實ト軍事並産業上ニ於ケル當時ノ要求程度トニ鑑ミ十八年計畫ハ專ラ馬匹ノ資質改良ヲ以テ主眼ト爲セリ而シテ明治三十九年馬政局設置セラレ右ノ計畫ニ基キ其ノ事業ヲ開始セラレタルモノトス

第二期計畫綱領

馬政第二期計畫ハ産業上ノ施設及助長獎勵ト相俟チテ馬ノ改良増殖ヲ圖ルニ存シ其ノ方法ハ國防上及經濟上ノ基礎ニ立脚シテ持久力ノ大ニシテ用途ノ廣キ馬ヲ得ルヲ主旨トシ左記諸號ニ依リ之ヲ遂行セムトス

第一 改良計畫ハ大正十三年度ヨリ十二箇年ノ期間ニ於テ之ヲ遂行ス

第二 必要馬數トシテ少クトモ内地ニ於テ百五十萬頭ヲ維持シ尙努メテ増殖ヲ圖ラムトス

第三 種牡馬ノ總數ハ六千頭ヲ目標トス内國有種牡馬ノ數ハ千五百頭トシ民有種牡馬ニ對シテハ相當ノ保護ヲ加ヘ四千五百頭ニ達セシムコトヲ期ス

第四 馬ノ血液ノ改良又ハ調節ニ依リ體型ノ整理ヲ行ヒ種類固定ノ基礎ヲ確立セムトス

第三 產馬ノ方針ハ馬ノ持久力ニ重キヲ置キ其ノ體格ハ中等體尺者ノ使用ニ

適シシムルヲ標準トシ轉用型中間種ノ多數ヲ生産スルヲ主眼トス

第四 改良計畫下ニ産業上ノ施設及助長獎勵ノ爲行フヘキ事項左ノ如シ

一 種牡馬ノ保護

二 馬ノ利用獎勵

三 馬ノ育成ニ關スル施設ノ獎勵

四 牧野ノ改良維持ノ施設

五 馬ニ關スル共濟事業ノ助成

六 馬ノ衛生ニ關スル施設

七 馬ニ關スル取引ノ改善

八 馬ニ關スル畜産組合等ノ團體ノ助成

九 馬ニ關スル試驗事業

一〇 道府縣種畜場補助

一一 共進會、競技會等ノ獎勵

一二 優等馬ノ薦獎

一三 馬ノ登録ノ助成

一四 馬ニ關スル功勞者ノ表彰

一五 競馬ノ指導

一六 乘馬ノ獎勵其ノ他馬事思想ノ普及

一七 其ノ他馬ノ改良増殖ニ有益ナル事項

馬政調査會議決希望事項

馬ノ増殖ハ内地以外特ニ朝鮮ニ於テ其ノ必要ヲ認ムルニ付相當ノ措置ヲ採
ラレムコトヲ望ム

第二期計畫綱領說明

第一 第二期計畫ヲ大正十三年度ヨリ同二十四年度(昭和十年)ニ至ル十二箇年ニ限定シタル事由左ノ如シ

- 一 明治三十八年臨時馬制調査會ノ審議ニ基キ立案セル馬政計畫ハ三十箇年ノ繼續事業ニシテ其ノ第一期ヲ十八箇年トシテ諸般ノ業務ヲ遂行シ來リタル關係アルノミナラス馬種改良ノ要件タル血液進化ノ功程ハ第一期ニ於テ既ニ總馬數ノ三分ノ二ニ達シタルヲ以テ殘餘三分ノ一ニ對シテ更ニ血液ノ昂進ヲ圖リ併セテ一般馬匹ノ體型整理ヲ行ハムトスル爲ニハ十二箇年ヲ一期トスルノ適當ナルヲ認メタルニ由ル
- 二 十二箇年ヲ一期トスレハ其ノ第一年ニ於テ種付シ第二年ニ於テ生産シタル馬ノ蕃殖成績ハ第七年目ニ於テ判明シ更ニ第二代生産馬ノ種付ニ依リ生レタルモノノ蕃殖成績ハ第十二年目ニ於テ判明スルヲ以テ馬二代ニ

互リテ血液ノ昂進、整理及種類固定ノ狀況ヲ觀察シ得ルノ便宜アルニ由ル

第二 全國ニ於ケル總馬數ハ國防上及産業上ノ見地ヨリ少クトモ百五十萬頭ヲ維持スル必要アルヲ以テ軍事上ノ要求ニ悖ラサル範圍ニ於テ將來努メテ經濟上有利ナル馬種ノ生産ヲ獎勵スルト共ニ一面種牡馬ノ保護、牧野ノ改良維持、利用方面ノ開拓、取引ノ改善、衛生施設等助長獎勵ノ方策ヲ講シ以テ必要馬數ノ維持ヲ圖ラムトス

第三 種牡馬

- 一 種牡馬ノ總數ハ六千頭ヲ標準トシ現ニ有スル五千三百六十八頭ニ對シテ年々約六百頭ノ優良種牡馬ヲ補充更新セシメ十二箇年ノ後ニ於テ種牡馬六千頭ヲ得ルノ方針ヲ採ラムトス
- 種牡馬ノ要數ヲ前項ノ如ク定メタル所以ハ現在ノ蕃殖牝馬約三十六萬頭中年々種付ニ供用シ得ルモノ約三分ノ二即チ二十四萬頭ナルヲ以テ種牡

馬一頭平均四十頭ヲ種付スルモノトシ六千頭ヲ適數ト認メタルナリ實際ニ於テハ種牡馬ノ多數ハ五十頭前後ヲ種付シ得ル能力ヲ有スルモ山間僻村ニ在リテハ地勢ノ關係上極メテ少數ノ牝馬ニ種付スル實況ナルヲ以テ之ヲ平均シ種牡馬一頭當種付ヲ四十頭ト看做スヲ妥當ナリトス

二 國有種牡馬ノ數ハ第一期計畫ニ於テ總馬數約百五十萬頭ノ千分ノ一ヲ標準トシテ定メタル千五百頭ヲ踏襲シ第二期ニ在リテハ主トシテ血液ノ整理ト種類固定ノ基礎ヲ形成スルニ要スルモノナリ内百五十頭ハ經費ノ關係ヨリ道府縣等ニ委託貸付スルモ之カ補充ハ他ノ國有種牡馬ト同様ニ行フモノトス

國有種牡馬ハ毎年其ノ十分ノ一即チ百五十頭ヲ補充更新スル必要アルヲ以テ國立牧場ノ生産馬ニ依リ補充スル外内國及外國ヨリ資質優良ナルモノヲ購買シテ之ヲ補フモノトス其ノ補充區分ヲ示セハ凡ソ左ノ如シ

國立牧場產駒數 一〇四頭 種牡馬得數 五四頭

内國購買數 一〇〇頭 種牡馬得數 七六頭
外國購買數 二〇頭 種牡馬得數 一五〇頭

第四

種牡馬ノ血液整理ヲ行ハムカ爲ニ海外ヨリ輸入スヘキ馬ノ種類ハ之ヲ統一スルノ要アリ從來ノ成績ト將來ノ需用トヲ斟酌シ左ノ如ク之ヲ制限セムトス

- 一 輕 種(乘 馬) アラブ、サラブレッド、アングロアラブ
- 一 中間種(輕軌馬) アングロノルマン、ハクニー
- 一 重 種(重軌馬) ベルシュロン

輸入種馬ノ種類ヲ限定スルハ全國種牡馬ノ血液ヲ役種別ニ前記ノ種類系統ニ統一スル結果トナリ種類分立ノ目的ヲ達成スル所以ナリトス
各個體ニ對スル血液濃淡ノ程度ト役種別ノ關係ハ各地ノ狀況ニヨリ適宜増減斟酌シテ牝牡相互ノ間ニ體型能力ノ均等ヲ圖リ以テ各地方ニ適應スル馬

ノ種類固定ノ素地ヲ形成スルモノトス

第五 馬ノ能力昂上ニ就テハ各役種共所要ノ速力及持久力ヲ附與スルコトノ必要アルモ特ニ持久力ノ増大ニ重キヲ置キ其ノ體格ハ努メテ幅員ノ増加ト四肢ノ强健ヲ圖ルヲ主眼トシ我國民中等體尺者ノ使用ニ便ナラシムル如ク適度ニ其ノ體高ヲ制限スルヲ要ス此ノ目的ヲ達成スル爲ニハ牡牝ノ配合ニ留意スル外種牡馬検査合格標準ニ最高限度ノ體高ト胸圍比率ヲ指定シ地方ニ適切ナル體型馬ヲ選用セシムトス其ノ役種ニ付テハ軍事上ノ要求ヲ充タスト共ニ産業上最モ必要トスル體高適度ニシテ體格堅實ナル所謂實用的體型馬ノ多數ヲ生産セシムルハ即チ産馬事業ヲシテ經濟的基礎ノ上ニ立脚セシムル所以ナルヲ以テ大體左ノ供用方針ニ準據シテ國有種牡馬ヲ分類シ中間種系種牡馬ノ多數ヲ供用セムトス

種牡馬供用方針

- 一 輕種(乘馬) 一〇乃至一五%

- 一 中間種(輕輓馬) 七五乃至八五%

- 一 重種(重輓馬) 五乃至一〇%

昭和十年十一月三十日印刷
昭和十年十二月一日發行

農
林
省

印刷者 內閣印刷局

Doc # 2923

8th 15th 12th
C. J. S. W.

Stems

P. R. O. J. 105